

| 氏名    | ふりがな      | 所属名称                      | 取組概要   |
|-------|-----------|---------------------------|--|
| 安部 敏樹 | あべ としき    | 一般社団法人リディラバ/株式会社Ridilover | <p>■社会課題・地域課題をテーマとしたスタディツアーを企画しあらたな市場を開拓。<br/>                 ■被災地での教育旅行をした復興支援(例:釜石での被災後初の100人規模での教育旅行など)。<br/>                 ■安倍首相が座長を務める観光立国推進会議での「アクションプログラム2015」として政策化。<br/>                 (11)国民の旅行振興に向けた意識醸成・環境整備」の項目において「若者に旅の意義や素晴らしさを伝える「若旅★授業」を地方で拡大するとともに、若者の関心が高い、エネルギーや地域医療など様々な社会テーマを扱ったツアー商品の造成を推進し、より多くの若者が旅に出るきっかけを創出する。【新規】」という形で記載。<br/>                 ■観光から移住定住・産業振興・事業承継・MICE誘致を一貫して実現(例えば林業のツアーを通して5人の事業承継・移住の実現など。これまで20人以上がツアーを通しての移住や2拠点居住を実現したと思われる)。<br/>                 ■600人以上のボランティアマネジメントを通しての課題の洗い出し。<br/>                 ■社会起業家の経営者向けカンファレンスR-SIGを300人規模で3年連続開催。京都・つくばなどの地域開発に寄与。<br/>                 ■東大の講義にて200人の学生に対し、ソーシャルビジネスのためのチームビルディングなど講義から30以上のプロジェクトを創出。講義をまとめた著作『いつかリーダーになる君たちへ』(日経BP)がAmazonで部門別1位を達成。<br/>                 ■被災地の医療現場における鍼灸師などを含めた新たな医療チーム体制の構築と実施・<br/>                 ■R-SIGにおける「ソーシャルビジネスのプログラム”CrossPoint”」、観光庁研修、青森県研修、スタディツアーなどを通して100地域150社以上のインキュベーション支援。<br/>                 ■述べ20校以上の教育旅行の実施。<br/>                 ■スタディツアーなどの事業を通して扱うテーマは「農・林・水産業」「環境」「医療・介護・福祉」「貧困」「地域活性化」「公共事業」など200弱。<br/>                 ■東証一部上場企業なども含め企業の幹部研修や人事研修としての地域課題・社会課題の現場での研修事例も10以上<br/>                 ■アカデミックなアクティブラーニング、ファシリテーションの講義などを東京大学などの大学教員から各地の教育委員会や校長向けに実施<br/>                 【リディラバの事業に関連するURL】<br/>                 [Travel The Problem:スタディツアー専門の旅行サービス]<br/> <a href="https://traveltheproblem.com/">https://traveltheproblem.com/</a><br/>                 [TRAPRO:社会問題の百科事典]<br/> <a href="http://www.trapro.jp/">http://www.trapro.jp/</a><br/>                 [TRAPRO移住ロコミ:地域の気になるロコミが集まるサイト]<br/> <a href="https://iju.trapro.jp/">https://iju.trapro.jp/</a><br/>                 [「社会起業」の最先端を知る]招待制カンファレンス:R-SIG(アール・シック)]<br/> <a href="http://ridilover.jp/R-SIG/">http://ridilover.jp/R-SIG/</a><br/>                 [リディラバ(HP)]<br/> <a href="http://ridilover.jp/">http://ridilover.jp/</a></p> |
| 天野 礼子 | あまの れいこ   | NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」   | <p>H23年より、島根県西部の高津川流域の三市町、益田市、津和野町、吉賀町に「総合特区」への立候補を推め、当選。「アドバイザー」を務めた。事務局長を務めるNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」では養老委員長と共に、高津川流域に「二地域居住から定住へ」を進めてきている。</p>  |
| 井上 将太 | いのうえ しょうた | 井上地域づくり事務所                | <p>○森林・木材を活用した新たな商品やサービスの開発及びマーケティング<br/>                 ○中山間地域などでの体験型観光のプログラム及び仕組みづくり(廃校活用など)<br/>                 ○住民参加のまちづくりに向けての場のプロデュース(ワークショップ運営)<br/>                 ○中心市街地でのソフト事業のプロデュース<br/>                 ○1次産業分野での環境教育のプログラム開発<br/>                 ○各種セミナー・講演講師(講演実績:安芸市商工会議所女性部、香美市公民館、高知県婦人会、吉野町まちづくりセミナー)</p>   |
| 井上 弘司 | いのうえ ひろし  | CRC地域再生診療所                | <p>○全国各地にて、観光・ツーリズム・6次産業化・雇用創造・中山間地域振興等の講演、年間指導<br/>                 1. 地域診断の実施(地域課題の整理分析)および課題に基づいた人材育成<br/>                 2. 地域再生・地域振興に必要なアドバイスの実施<br/>                 ・グリーン・ツーリズム、ニューツーリズムの推進支援<br/>                 ・DMO、観光まちづくり事業体の設立指導<br/>                 ・地域再生の手法や地域づくり・人づくり<br/>                 ・地域資源開発(6次産業化支援)<br/>                 食、文化歴史、直売所、農村レストラン、農家民宿、体験プログラム、ツアー造成指導<br/>                 有害鳥獣対策と活用<br/>                 3. 地域人材育成プロデュース</p>  |
| 上野 浩文 | うえの ひろふみ  | 一般社団法人コミュニケーションデザイン機構     | <p>環境・社会・経済が統合的に向上する持続可能な社会の形成を目指し、持続可能な開発のための教育(英文名Education for Sustainable Development:ESD)の理念に基づくコミュニケーションを通じて、地域社会を構成する多様な主体間をつなぎ、地域環境課題解決を促す仕組みづくりを行い、持続可能な社会の創造と公益に寄与することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 持続可能な社会の担い手育成事業</li> <li>2. 持続可能な社会づくりに関係する自治体、NPO等、各主体をつなぐ事業</li> <li>3. 地域環境課題の解決を目的とした住民協働による社会基盤整備事業</li> <li>4. 持続可能な社会づくりを推進する主体等を支援(助言・情報提供)する事業</li> <li>5. 持続可能な社会につながる学術、文化、芸術またはスポーツの振興をはかる事業</li> <li>6. その他、前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業</li> </ol>   |
| 江口 健介 | えぐち けんすけ  | 一般社団法人 環境パートナーシップ会議       | <p>環境分野の中間支援組織である地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の運営業務を中心に、環境NPOの基盤強化、企業のCSR、環境パートナーシップ形成等への支援を行う。<br/>                 主として環境省事業である「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」の事務局業務を担当し、環境NPOと自治体、また必要に応じて企業や研究機関、学校、第1次産業などあらゆるステークホルダーとの協働体制構築の支援を全国各地で行ってきた。</p>   |
| 大谷 鮎子 | おおたに あゆこ  | NPO法人 九州キラキラみなとネットワーク     | <p>・地球環境とエネルギー問題<br/>                 ・みなとまちづくりと女性の参画</p>  |

| 氏名     | ふりがな      | 所属名称                                   | 取組概要   |
|--------|-----------|--|--|
| 岡崎 英人  | おかざき ひでと  | Okapi Service                          | <p>経済産業省実施の産業クラスター計画の推進機関として、広域多摩地域（埼玉県南西部・東京都多摩地区・神奈川県中央部＝TAMA地域）が世界有数の環境に配慮したものづくりの新産業創出拠点となることを目標に掲げ、TAMAのポテンシャル（多数の優秀な中小企業や理工系大学の集積など）を活かして、産学官に金融を加えた人的ネットワークの構築・活用（TAMA協会には約150名の登録コーディネータがおります。）と企業の新事業創出活動を支援する施策の立案・実行を進めました。特に、日本の他地域との「広域的な連携」や、市場に大きなインパクトをもたらす研究開発・技術開発につなげるための「大手企業との連携」、市場として魅力がある中国を初めとしたアジア、中小企業が拘りを持ってものづくりをしているイタリア、イノベーションのつぼとも言われるシリコンバレーの展開に力を注ぎました。</p> <p>現在は、コンサルタントとして意欲ある中小企業の戦略的事業展開や自治体・支援機関とタイアップして地域産業活性化のご支援をしています。</p>  |
| 岡田 昭人  | おかた あきと   | 早稲田大学都市・地域研究所<br>／一般社団法人コミュニティネットワーク協会 | <p>埼玉県上尾市の密集住宅地再生事業においては連鎖型の共同建替の4プロジェクトに関わり、その後墨田区向島地区の密集住宅市街地でのまちづくり活動や鳥取市中心市街地での老朽化した防火建築帯のコンバージョン・リノベーションに向けた修復改善型の整備計画策定に携わっている。</p> <p>近年は福祉、医療関係者と連携しながら、高齢者の住居・生活改善支援及びLLPやLLCを立ち上げ、住まいづくりの主体づくりの支援をしている。また社団法人コミュニティネットワーク協会が運営するコミュニティファンド研究会で、新しい市民ファンドの仕組みに向けて調査・研究、提案を行っている。</p> <p>花巻市東和町では、商店主や高齢居住者が地域で支え合いながら暮らすための共同店舗や住まいづくりを様々な制度を活用した共同建替事業支援やエリアマネジメントを志向するまちづく会社を支援しながら、空き地空き家を活用した美術展や自立的財源を確保するためのまちづくりファンドの組成など地域再生に向けての実践活動を行っている。</p>  |
| 小野田 弘士 | おのだ ひろし   | 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科                    | <p>エネルギー・資源循環、モビリティ等を専門分野としており、全国各地でのスマートコミュニティプロジェクトや再生可能エネルギー、未利用エネルギー等に関するプロジェクトの創出を支援している。とりわけ、自らベンチャー企業を創業した経験を生かし、指導・助言のみならず事業化に向けた民間企業のコーディネーター、官民連携スキームの構築支援等を得意としている。具体的には、下記の役割を担うことが可能である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性に応じたスマートコミュニティプロジェクト等のコンセプトデザイン</li> <li>・再生可能エネルギー等を活用した自立・分散型エネルギーシステムの構築</li> <li>・地域ニーズに適合したソリューション（エネルギー、モビリティ、ICT等）の構築</li> <li>・企業誘致およびPFI/PPP型事業モデルの設計</li> <li>・モニタリングおよび効果測定 等</li> </ul>  |
| 小野塚 喜明 | おのづか よしあき | しおざわ版ダッシュ村                             | <p>四季を通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのろしプロジェクトでは自立型事業へ産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ各地へ講演活動</p>   |
| 海津 ゆりえ | かいづ ゆりえ   | 文教大学国際学部                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1. 資源調査（宝探し）の支援<br/>岩手県二戸市や南大東村など、里山や離島等での資源調査に関わってきました。住民とともに宝探しをし、そこからイノベーションを興す活動を支援しています。答えは観光ばかりではなく、ブランド開発等へも展開していきます。</li> <li>・ 2. エコツーリズムの推進<br/>西表島や裏磐梯等でエコツーリズムのスタートアップの支援を行ってきました。このようなエコツーリズム推進地域への全般的アドバイス（推進方策、人材育成等）を行います。</li> <li>・ 3. 宝探しからエコツーリズムへ—観光まちづくりへの支援<br/>地域づくりは長い年月をかけ、多様な人とのネットワークを広げながら進めるものです。数年かけて、宝探しからエコツーリズムの推進までの経緯をトータルでサポートします。</li> <li>・ 4. その他<br/>学生参加型調査、プロのガイドとの協働によるツアー開発、日本エコウォーク環境貢献推進機構との連携による「まちあるき」の開発等、私のチャンネルを活かした支援が可能です。</li> </ul> |

| 氏名    | ふりがな      | 所属名称                       | 取組概要  |
|-------|-----------|----------------------------|---|
| 笠原 秀紀 | かさはら ひでのり | いなほコンサルティング                | <p>問題解決・企画創造のグランドデザイナーとして、組織、地域の問題解決や人々や地域の夢の実現に取り組んでいます。</p> <p>1) コーディネイト・プロデュース<br/>地域住民、行政、企業、外部専門家など関係者の協働体制を構築。対立を超え、各種技術、仕組みを含む協働体制を創造し、問題解決、企画を実現に近づけます。本手法では、「仕組みの中核・デザインをどのように作るか」が最大要点になるので、テーマはあまり問いません。下記の例の他、震災など災害復興、ヘルスケア、食、農、社会貢献の資金調達など様々なテーマでの問題解決を行っております。</p> <p>【環境分野事例】関係者協働体制の構築による環境汚染地域の問題解決。地域のダイオキシン問題解決（ダイオキシン排出量は、住民、行政、事業者の連携により、焼却炉技術だけでは出せない成果が出せる）。「省エネをすると経営がよくなる（省エネ以上の収益効果）」という新メソッドの民間企業群への導入により、地域の企業群が環境に良い活動と経済的発展を両立させる。</p> <p>2) 新規事業開発（地域版、全国版）<br/>企業1社の事業開発ではなく、地域モデル化、全国展開により、地域や広域的な活性化、業界および経済活性化の実現支援。<br/>【事例】フロン回収技術の開発・技術公開・フロン回収事業の立ち上げ。全国の行政システム（冷蔵後、空調回収）と連動し、行政と協働する地元の小規模事業者の新ビジネスモデル構築。業界は事業用設備等からのフロン回収の新規事業成立。派生事業含み、年間数百億円の市場に成長。</p> <p>3) (地域の)問題解決スキルアップ支援<br/>地域の「問題解決ができる力」を向上させていく。前掲1) コーディネイトおよび、2) のスキル・ノウハウの一部を地域に渡していく。問題解決するのは地域であり、地域住民。前掲1) 2) よりもこちらの方が地域活性化力は格段に向上する。前掲1) は当方が引き上げた後に衰退するケースもある。</p> <p>4) (地域の)企画・創造力開発支援<br/>地域の未来や願うビジョンを地域の人々で達成できるように、アイデアを出し、夢の実現、問題解決ができる力を向上させていく支援。主役は地域の人々である。当方のノウハウを地域に移していく支援。前掲3) と同様に、地域の力が向上する。</p> <p>5) 災害復興&amp;予防_BCP/M融合メソッド<br/>阪神大震災以降、現場復興コーディネイト、BCP/M（事業計画マネジメント）支援、および、それらを融合した支援。個別企業や組織のBCP/Mを超えた、地域（連携）BCM構築の支援。</p> |
| 春日 隆司 | かすが たかし   | 特定非営利法人しもかわ森林未来研究所（北海道下川町） | <p>○地方創生総合戦略<br/>○森林バイオマス活用による地域振興<br/>○二酸化炭素吸収・削減クレジット創造<br/>○環境未来都市<br/>○自然資本<br/>○持続可能な開発目標（SDGs）準拠のまちづくり<br/>○その他地域振興全般</p>   |
| 加藤 孝一 | かとう こういち  | カルネコ株式会社                   | <p>【理念】 『日本の森と水と空気を守る』<br/>【しくみ】 環境貢献プラットフォームEVI ※90の森林クレジット（県別カバー率81.8%）預託<br/>【目的】 森と企業と消費者を結び、クレジットの流通促進、環境保護の支援を行う<br/>【事例】 ■規格外のりんごをドライフルーツ化。1袋1円が森林支援に！<br/>■規格外の椎茸を環境貢献型商品としてブランド化<br/>■地域住民による電気代節約活動と地域経済の活性化を支援<br/>■国産材・間伐材の利用促進のための販売サイト構築・稼働<br/>■全国の森林保護を支援するキャンペーンの企画・実施（4年目）<br/>■被災地の森林保護活動を支援する防災キャンペーンの企画・実施（3年間）<br/>■お買い物決済1タッチ1円（SUIICA・PASMO）で森林保護支援！<br/>■観光と環境貢献の融合=GREEN&amp;CLEANリゾートの推進<br/>■CO2排出ゼロの道の駅・日野川の里にちなん（鳥取県日南町）のオープン準備～運営に参加。日本カーボンの大賞農林水産大臣賞受賞を支援。</p>  |
| 加藤 裕之 | かとう ひろゆき  | 東北大学未来科学技術共同研究センター         | <p>下水道が有する資源を農業に利用することは、下水道の有するイメージ等からなかなか難しいプロジェクトである。全国的なベストプラクティスを紹介することで、進めるための技術的手順、地域内のコミュニケーションの取り方、マスメディアの活用等を織り交ぜながら、次第に普及展開していく方法を理論化している。この普及理論は、下水道の農業利用にとどまらず、さまざまな地域活性化のためのムード作りにも役立つと考える。</p>  |

| 氏名    | ふりがな       | 所属名称   | 取組概要  |
|-------|------------|--|---|
| 北尾 洋二 | きたお ようじ    | 株式会社ザメディアジョン・リージョナル／大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科 | <p>「地域のために、地域を越えて」及び「新卒採用で地方創生」をミッションとした、新しいタイプの「創職」サポート・「ジョブメーカー」として日々活動しています。メディアのアレンジメントから出版・広告代理・編集プロダクション、まちづくりコーディネーター・社会調査、ワークライフバランス、男女共同参画推進、障害者雇用支援、新卒採用支援に至るまで、地域活性化から企業活性化までをカバーします。「ご縁と感謝の経営」を軸にしながら、「ひとりひとり まちづくり くにづくり」をモットーに活動を展開しています。</p> <p>● 地域活性化と発展は「雇用・就職」から／学生、企業、地域社会の立場をしっかりと理解し、お互いの納得度を高める就職支援と企業の採用支援（採用ノウハウの提供、経営指導など）、そして地域コミュニティとしての場づくりを行なっています。（実績：文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」、厚生労働省「地域人づくり事業」、島根県庁、山口県庁、大阪府大阪市、岡山県岡山市、山口県山口市・下関市・岩国市、島根県益田市など）</p> <p>● 地域資源の掘り起こしを「若者目線」で／アクティブラーニング（サービ斯拉ーニング）の手法を用いたフィールドワークで、地域の課題を若者目線で改善提案。「連携」という言葉の枠を越えた、地域づくりを展開しています。（実績：文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」、厚生労働省「地域人づくり事業」、日本環境協会「いきものみつけファーム」及び「こどもエコクラブ」、各自治体「まちづくり講演会」、ソーシャルネットワークワーキングサービス（SNS／facebook、twitter、Instagramなど）を活用した情報発信事業及びイベント企画、SNSに関する利用実態調査、地域の魅力度調査、大分県竹田市・豊後高田市・姫島村、山口県山口市・下関市・宇部市、島根県江津市、高知県宿毛市、宮崎県串間市、山口銀行・山口フィナンシャルグループなど）</p> <p>● 地域の歴史をテーマとした研究活動、魅力発見及び研修事業展開／歴史街道・萩往還散策マップ実行委員会、夢街道ルネサンス、知覧研修、萩・松下村塾をテーマとした現地調査活動、月刊松下村塾・月刊高杉晋作・龍馬と長州等の歴史ムック発刊とプロモーション、日本風景街道などの調査研究及び産学連携のフィールドワークを実施しています。（実績：文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」、鹿児島県南九州市、山口県周南市・萩市・山口市・防府市・下関市、宮崎県串間市など）</p> |
| 北村 省一 | きたむら しょういち | 株式会社サイテック                                      | <p>【地域産業支援】 情報社会における企業のフィンダビリティ（見つけてもらうこと）をテーマに、企業活動の存在を知ってもらう基盤づくり（Smart-PR等）、集客事業戦略を中心に取組んでいます。具体的には、チラシづくり、メディア活用を提案し、売上げ直結の支援を目指しています。</p> <p>【地域づくり（人材育成・産業振興）】 ・80年代後半、経済成長が鈍化する中、地域振興（人材育成、産業振興）等の観点から 公立等の大学づくりが熱心に行われてきました。福岡県、広島市、神戸市、滋賀県、兵庫県、和歌山県などで大学整備に向けた企画提案、構想づくりのお手伝いして参りました。中でも、広島市立大学や滋賀県立大学が設立され、地域に根差す先進的な大学となっています。</p> <p>【自然資源調査】 各地の河川整備に伴う自然環境調査、福岡の那珂川、和歌山の日置川（河川水辺の国 勢調査）などでは魚介類調査を行い、地域資源とその活用環境について明らかにし保全と創造の方向を提案しました。平成24年には高浜町の産業振興のため、青葉山の植物調査を行い、有用植物の選出を行い、植物資源を活用した事業提案をしました。</p>   |
| 衣笠 愛之 | きぬがさ よしゆき  | (有)夢前夢工房 庫大地の会 (株) 兵庫                          | <p>平成6年 ・農業規模拡大を決意する（専業農家へ）</p> <p>7年 ・経営改善計画認定取得する（認定農業者） ・無農薬栽培本格的にはじめる</p> <p>9年 ・生きがい農園を主催する</p> <p>11年 ・農業生産法人設立 ・夢そば作付け開始 ・小学校農業体験に関わる</p> <p>12年 ・青空市場「夢」設立 ・夢そば推進協議会を結成する</p> <p>15年 ・特定農業生産法人認定される ・夢そば乾麺完成 ・ひょうご安心ブランド取得（無農薬認定）</p> <p>17年 ・新規就農研修施設「夢工房」を設立する</p> <p>18年 ・環境創造型農業兵庫モデル地区に認定される（10ha）</p> <p>20年 ・食育アドバイザー指導を始める ・第1回田んぼアートを開催 ・地元スーパーとの連携開始</p> <p>21年 ・姫路市夢さき夢のさとの指定管理者になる（夢やかた） ・農家レストラン「夢工房」オープン</p> <p>22年 ・産官学連携商品開発への取り組み、米粉食品指導員免許取得（（財）日本穀物検定協会）</p> <p>23年 ・6次化法認定（農林水産省）、食と地域の交流推進事業認定（平成23～24年）</p> <p>24年～25年 ・イチゴハウス（37a）、直売所「夢街道farm67」開設</p>  |

| 氏名    | ふりがな      | 所属名称          | 取組概要   |
|-------|-----------|---------------|--|
| 久保田 学 | くぼた まなぶ   | 公益財団法人北海道環境財団 | <p>(1) 環境教育・環境保全活動に関するコンサルティング、協働支援<br/>・「環境」「北海道」を軸に、さまざまな課題解決に向けた事業・活動の設計、リソースの紹介、情報提供等を幅広く行っています。<br/>・寄付金と道内の環境保全活動とのマッチング等もお手伝いします。<br/>・地域の温暖化対策や環境教育・人材育成等に関する事業協働、政策協働も行います。</p> <p>(2) 環境分野における政策コミュニケーションの企画・実施<br/>・環境政策への市民参加、政策協働の企画、設計、実践をお手伝いをします。<br/>・政策に関する意見交換、政策提言やパブリックコメントを引き出すワークショップ等、地域と環境政策をつなぐ場づくりを企画、実施しています。</p> <p>(3) スタディーツアー、フィールドワークショップ等の企画・運営<br/>・地域の環境・自然資源や産業・歴史の魅力を楽しみ、伝えるさまざまな形のプログラムをESD(持続可能な開発のための教育)の視点も込めて企画、実践しています。</p>  |
| 熊倉 浩靖 | くまくら ひろやす | 群馬県立女子大学      | <p>(1) 小学校区等を単位とした地域づくりを歴・文化資源を生かして支援<br/>(2) 市町村行政評価・ガバナンス改革をベンチマーキング手法で分析・支援<br/>(3) 環境省環境評価プログラム「エコアクション21」普及・啓発<br/>(4) 大学では、内発的発展論、ワークショップ、上野三碑、東国文化、地球環境と群馬、上毛かるたなどを講義</p>   |
| 栗原 秀人 | くりはら ひでと  | 下水道広報プラットフォーム | <p>「水の価値」は用水供給の他、街並み形成と品格、癒しと遊び、生態系保全、産業・観光などの地域産業等々多面的に及びます。一方で、災害、渇水、水質汚濁等々の水の脅威も私たちを取り巻いています。先人たちの「水の脅威」と闘いながら、「水の恵み」を得続けるための累々とした努力の積み重ねの上に、今日の私たちの暮らしや地域社会が育まれています。「水」は地域の宝ですが、ややもすれば豊かさや便利さの中で、そのことを忘れてしまい、水辺からも遠ざかってしまいがちです。何もしなくても「水の恵み」が得続けられると思っているかもしれません。改めて、地域の皆さんと一緒に、現地踏査、ワークショップ、パネルディスカッション等の参加型・協働型取り組みを行い、①地域ごとの『「水の脅威」と「水の恵み」の再確認』 ②先人達が残した有形無形の『水遺産探し＝地域の宝探し』 ③『水を上手に付き合うこれからの街づくりの姿、目標像の共有(水辺づくり、水に強い街づくり、水を活かしたまちづくり、循環型社会づくり等々)』 ④目標の実現を目指した公共・市民等のそれぞれの行動計画(加害者と被害者等の立場を踏まえた協働・参画、責任と役割分担等)』等を明らかにし、地域総ぐるみ活動を展開していきます。中でも、「下水道の価値と機能」を活かした新しい水環境づくりや下水道と一体となった農林水産業の展開による地域づくりを取りまとめていけたらと思っています。</p> |
| 小島 大  | こじま だい    | ささつな自治体協議会    | <p>全国各地の40数人の首長陣が集う、ささつな(ささえる・つながる)自治体協議会の議長・事務局としまして、会員自治体を中心とした住民の皆様の生活に貢献・寄与する事を目的とし、都内の大学の教授陣や自治体職員と連携して、首長陣を中心とした交流促進のための意見交換会、勉強会、懇親会等の開催などにより、地域を超えた複数の自治体間で締結しました防災協定を主な活動として自治体支援活動に取り組んでおります。</p> <p>同時に、会員自治体の道の駅等の商業施設を連携させること等により、スケールメリットを活用させることで、地域産業の振興、特産品の販売等による地域経済の活性化活動に寄与して参りたいと思います。また地元大学の教授陣と研究会を開催しての農業・教育分野を中心としたまちづくり推進支援活動と共に、ささつな自治体協議会と連携しております大手企業陣の集い、ささつなCSR協議会の企業メンバーと協働することで、ささつな自治体協議会の会員自治体様を中心に多岐な分野において自治体支援事業を行って参りたいと思います。</p>  |
| 小島 玉雄 | こじま たまお   | サン・アクト株式会社    | <p>・地域の貴重樹木や天然記念物の診断や回復を通じた地域資源の保全、地域活性化。<br/>・サクラの樹勢回復による観光地の名所の保全、地域活性化。<br/>・サクラでは、各種メディアへ取り上げられ、数多くの観光客が訪れる事例を多数有する。<br/>・樹木の診断技術開発を産官学連携で行い、地域再生に繋がる仕組みを多数構築。<br/>・京都大学等、大学と連携したプロジェクトを実施し、地域に貢献する仕組みづくりの構築。<br/>・各種メディアや企業との連携により、地域の再生・活性化に繋がる仕組みづくりの構築。<br/>・サクラを活用した地域コミュニティの再生、活性化。<br/>・樹木再生だけでなく、対象地域の活性化・立ち上げ支援。</p>  |

| 氏名     | ふりがな      | 所属名称                        | 取組概要  |
|--------|-----------|-----------------------------|---|
| 小島 由光  | こじま よしみつ  | 株式会社スーパーソニック / 五島列島水産流通株式会社 | 第3次産業(流通・外食マーケティング)の目線で第1次産業、第2次産業を結びつける6次産業化を実践。地域の特産品を見出し、川下の流通戦略をもって生産物が流通し、地域活性化に繋がる仕組み構築を行います。第1次産業・・・地域活性化支援事業 農産物・水産物のブランディング及び流通提案 第2次産業・・・地域特産品の消費マーケットニーズ、ターゲットを踏まえた商品開発提案 第3次産業・・・流通、外食事業コンサルティング、経営分析。●水産物(鮮魚)の産地直送の仕組み構築による目詰まり解消を行う。飲食店への直接流通によって生産者の収入高と購入者の仕入れコスト減を実現、また産地直送により最短時間で届くため鮮度保持が向上し、多くの水産物流通につながる。(五島列島水産流通) ●地域活性化に伴う地元主体組織構築と特産品開発、ブランディングにより地産地消型消費構造から地産他消に拡大。地域の知名度向上と特産品販売増を実施。(久賀島ファーム)   |
| 小林 英嗣  | こばやし ひでつぐ | 一般社団法人 都市・地域共創研究所/北海道大学     | ①地域の主体(行政・NPO・住民・企業・大学など)との連携を構築しつつ、都市や地域の創造的再生を臨床学的かつ協働的に支援。<br>②全国の地方都市と地方大学の共創的なキャンパスマスタープランの立案と地域再生と結びつく実現戦略を支援。<br>③地方都市において、「シティ・ブランディングとなる大学と地域社会との連携と共生による創造的再生」の戦略と戦術、加えてマネジメントプログラムを、まちづくりとキャンパスづくりの両側面から支援。<br>④全国まちづくり活動をNP0日本都市計画家協会・会長として発掘・支援し、全国まちづくり大会を開催。   |
| 駒田 健太郎 | こまだ けんたろう | コマケンラボ                      | 2013年～ 会津の新しい地域ブランド「ハンサムウーマン」プロデュース(経済産業省補助事業)<br>2013年 会津地域の観光地域づくり事業プロデュース<br>2015年～ 栃木県鹿沼市「加藤芸術村」プロデュース、アートディレクション<br>2015年～ 鹿沼市産製「にっこりなし」の海外展開プロデュース<br>2013年～ 鹿沼さつき盆栽&組子細工の海外展開プロデュース(経済産業省クールジャパン事業)<br>2008年～ 鹿沼市観光ネットワーク計画策定、観光サインデザイン<br>2013年～ 岐阜県白川町エコツーリズム推進業務<br>2008年 岐阜県笠松町 リバーサイドタウン笠松計画(まちづくりマスタープラン)策定  |
| 斉藤 俊幸  | さいとう としゆき | インテグレーション総合計画株式会社           | 2003年関東学院大学まちなか研究室追浜こみゆに亭開設に参加(2003年)、有明高専現代GP事業推進(文部科学省2005年)、全国水産高校生生徒研究発表大会四国大会で高知海洋高校うめプロジェクト優勝支援(2009年)、国際教養大学生による高校生向け英語合宿開催(秋田県由利本荘市、総務省地域力創造アドバイザー事業2010年)、千葉県立松尾高校スーパーグローバルハイスクール「地域から考えるグローバル・エイジング研究」(文部科学省2015年)、大阪府立能勢高校スーパーグローバルハイスクール「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」(文部科学省2015年)、地域活性化センター土日集中セミナー「魅力化による高校の生き残り」と地域活性化」主任講師   |
| 坂本 世津夫 | さかもと せつお  | 愛媛大学 社会連携推進機構               | H14年4月からH17年3月まで、愛媛大学にて「地域情報学」(伊予銀行寄附部門)を担当する。H17年4月からH23年3月まで、高知大学国際・地域連携センター教授(生涯学習部門長)。平成26年10月より、愛媛大学社会連携推進機構教授として、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」、「地域の未来をステークホルダーと共に創る実践的人材の育成」に取り組んでいる(愛媛県南予地域担当の、地域連携コーディネーター)。その他、日本の情報化を、地域という視点で見直し、地域における「知的能力」と「コミュニケーション能力」を高めることにより、新たな産業集積や地域の活性化(地域の自立)が実現できないか、研究・実践している。<br>APPLIC(一般財団法人 全国地域情報化推進協会)の「ICT地域イノベーション委員会」でアドバイザーを務めている他、四国のICT活用促進、ICT地域イノベーション、ICT人材育成に取り組んでいる。<br>平成15年9月、「地域産業おこしに燃える人」(内閣官房・経済産業省)に選定される(小泉総理より、首相官邸にて)。平成19年3月、内閣官房より「地域活性化伝道師」にも選定される。地域情報化アドバイザー(総務省委嘱)、四国情報通信懇談会、日本テレワーク協会(アドバイザー)、ICT地域マネージャー(総務省委嘱)、現代龍馬学会他 |
| 崎田 裕子  | さきた ゆうこ   | ジャーナリスト・環境カウンセラー            | くらし・地域など足元から持続可能な社会の実現を目指して、NPO活動、個人での活動、行政委員として生活者視点での実践及び政策提言活動を実施。<br>■「NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長として、<br>1)「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」表彰で全国の個性ある地域環境活動を応援。<br>2)全国の地域環境活動キーマンを集め「環境まちづくり体験エコツアー」を実施。2011年は、前年入賞地・熊本県八代市で、市民相互交流「環境まちづくり・学び合い」を実施した。<br>3)資源エネルギー庁主催の高レベル放射性廃棄物に関する地域ワークショップ「共に語ろう 電気のごみ」を、全国で実施。<br>■「NPO法人新宿環境活動ネット」代表理事として、<br>1)地域と学校の連携による「新宿の環境学習応援団・まちの先生見本市」開催。<br>2)「新宿区立環境学習情報センター(エコギャラリー新宿)」の指定管理。  |

| 氏名     | ふりがな     | 所属名称              | 取組概要  |
|--------|----------|-------------------|---|
| 佐藤 安紀子 | さとう あきこ  | NPO海のくに・日本        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業と魚食文化について考えるシンポジウムの開催（1993年～）</li> <li>・漁村の女性と都市部の女性の交流活動「浜のかあさんと語ろう会」（1996年～）</li> <li>・小学生と漁村が交流する海彦クラブ活動（2000年～2011年）</li> <li>・小学生が離島を取材するわれは海の子活動（2012年～）</li> <li>・水産の意義を伝える本の制作、発行「クジラから世界が見える」</li> <li>・モロッコからナミビアまで西アフリカ22カ国の女性漁業者ネットワークを対象に、日本のすり身文化を伝えるワークショップ活動を連続実施（2011年～）。アフリカ開発会議にもアフリカの女性たちとともに参加し漁業の重要性を発信。</li> </ul>   |
| 佐藤 皓祠  | さとう ひろし  | 有限会社日智（ニッチ）       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域環境と住まい手ニーズをしっかりと検証したまちづくり計画の推進支援</li> <li>・地域ポテンシャル分析とともに、「住まい手ニーズ」と「主体者シーズ」の掘り起こし</li> <li>・地域資源（人、もの、歴史、観光、文化、環境など）の開拓</li> <li>・まち機能（医療福祉、教育、環境整備、生活利便施設など）の配置とゾーニング計画</li> <li>・まちづくりの担い手人材育成・継続できるまちづくりの仕組みづくり指導</li> <li>・地域コミュニティー創出に向けたサービスや収益事業、施設計画事業などの指導</li> <li>・中心市街地活性化基本計画の推進におけるプロセスマネジメントの指導</li> </ul>  |
| 澤 克彦   | さわ かつひこ  | 一般社団法人九州環境地域づくり   | <p>協働取組支援</p> <p>○企業やNPOからよせられる企画プログラム等について、多様な主体を連携させながら取組を充実させる。例）企業による社員研修のコーディネート。企業取組についての意見交換の場づくり。</p> <p>○モデル事業等を活用した、協議会活動についての助言・支援活動</p> <p>例）環境省協働取組推進事業採択団体への支援等。</p> <p>環境教育・ESD取組支援</p> <p>○環境教育のネットワークやプラットフォームと連携した、経験交流の場づくり。NPOと連携した環境保全・教育プログラムのコーディネート。</p> <p>例）環境教育ミーティングの企画運営。企業が支援する環境保全プログラムのコーディネート。</p>   |
| 澤田 廉路  | さわだ としみち | 鳥取大学／地域価値創造研究教育機構 | <p>【地域衰退を再生させた主な取組実績】</p> <p>■1. 地方中心市街地の再生実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・境港市、水木しげるロードの調査し、理論的にかつ情熱的に支援活動等を実施</li> <li>・倉吉市玉川白壁土蔵群を中心とする倉吉の街並み整備活動と活性化の実施</li> <li>・鳥取市鹿野町のまちなみ整備活動の推進（いんしゅう鹿野まちづくり協議会と一緒に「鹿野まち普請の作法」等も作成）</li> </ul> <p>■2. 中山間地域の再生実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県智頭町で、智頭杉「日本の家」等を手掛け、智頭町活性化プロジェクト集団に所属し、日本0/1（ゼロ分のイチ）運動の活動支援、四面会議システム等の活性化手法に携わる</li> <li>・いなばのジビエ推進協議会を全国に先駆けて立ち上げて、中山間地域の獣害対策と厄介者を活用した地域振興の支援を実施</li> </ul> <p>■3. 地域を活性化させる研修教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、大学（教員・学生）、住民、NPO関係者等との課題解決型研修を行ってきた</li> </ul> <p>様々な異なる主体の人々を結びつけ一緒にグループワークを行なうことで課題解決に向かう手法を学ぶ研修を実施</p> |
| 沢畑 亨   | さわはた とおる | 愛林館               | <p>1：食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の素材を中心に加工食品（味噌、漬け物、ドレッシング、クッキーなど）を製造販売。</li> <li>・近所の素材を活かした「ふるさとレストラン」を月2回開店し、高齢者の活性化に貢献。</li> <li>・水俣の素材を味付けした本格タイカレー・インドカレーなどのレストランを土日祝日に営業。</li> <li>・そば/うどん/豆腐/こんにやく/バウムクーヘンを2時間で作る体験教室。</li> <li>・家庭料理を持ち寄り、食べる「家庭料理大集合」を10回開催。集まった料理約700種はデータベースとしてまとめた。</li> </ul> <p>2：環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアと植え、草刈り・つる切りを行った21haの「水源の森づくり」。</li> <li>・棚田25aで香り米を耕作。50aの草刈りを山羊を活用して行う。</li> <li>・会費をいただいた会員向けに大豆を育て、収穫を配当する「大豆耕作団」森を棚田保全を行い、食育のプロを「棚田食育士」を養成し、屋根のない博物館「村丸ごと生活博物館」でグリーンツーリズムを行う。</li> </ul> <p>熊本県「緑化功労者」、棚田学会「棚田学会賞」、総務省「過疎地域自立活性化優良事例」総務大臣賞など受賞多数。</p>            |

| 氏名     | ふりがな      | 所属名称   | 取組概要  |
|--------|-----------|--|---|
| 椎川 忍   | しいかわ しのぶ  | (一財)地域活性化センター<br>／(一社)移住・交流推進機構<br>／日本創生委員会／地域に<br>飛び出す公務員ネットワーク | 人材育成と地域おこしをライフワークとして、土・日・祝日を殆どつぶして全国を行脚し、支援活動や講演を行う。<br>地域に飛び出す公務員ネットワークを結成。これを応援する首長連合の設立を提唱。国際日本文化研究センターでは「森里海連環」の研究に参画。政策研究大学院大学とも連携。<br>日本創生委員会では、林業復活・地域創生推進委員会アドバイザーとして活動。<br>農村文明創生日本塾、やねだん故郷創世塾、葉っぱビジネスの(株)いろどり、TOSS(まちづくり教育)、ふれあい囲碁ネットワーク神奈川(IGOコミュニケーションズ)、高知県の地域産業おこし、日本フットパス協会、東京おもちゃ美術館、全国各地の市町村職員研修所など数多くの活動と連携。羽黒古修験道山伏「永善」(五度位先達)、フルマラソン5時間、ハーフマラソン2時間10分の市民ランナーでもある。                                       |
| 柴田いづみ  | しばた いづみ   | 結まちづくり研究所・柴田いづみ<br>まちなか研究室／SKM<br>設計計画事務所                        | 主な取組<br>1 環境 →内湖再生の基礎調査 琵琶湖の内湖再生の為の活動。<br>2 中心市街地活性化 →学生サークルACT(Action Connect with Town)との空きビルを使った中心市街地拠点活動。<br>3 まちづくり →(主に滋賀)NPO彦根景観フォーラム副理事長として、又、LLPひこね街の駅等での活動。 歴史・景観・まちづくりフォーラム実行委員長。大学より拠点をなちなかに移し、地域に密着したまちづくりに取り組む。重要伝統的建造物保存地区(文化庁選定)の景観計画、交通計画、建物の修景計画等のアドバイス。(東京)目白まちづくり倶楽部で各種活動。<br>4 耐震・防災 →NPO東京いのちのポータルサイト理事として、各方面に提言。 防災・耐震・まちづくりフォーラム実行委員長、木造伝統構法の耐震事例づくり。  |
| 島田 幸子  | しまだ さちこ   | 一般社団法人 環境パートナーシップ会議  | 関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)において、環境省の地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業及びESDの推進等に取組んでいる。<br>国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)事務局、水俣病の経験を次世代に伝えるセミナーの企画運営等も行っている。   |
| 下田 祥裕  | しもだ よしひろ  | 真砂不動産株式会社／[元 N<br>PO法人KAO(カオ)の会]                                 | NPO法人KAOの会では、以下のエリアマネジメント活動を行っていました。<br>※( )内は活動の概要、【】内は仕組みを表しています。<br>1.公共空間の維持管理(駅前広場管理業務)【市委託+地域住民直接負担】<br>2.賑わい創出(イベント、夏祭り、コンサート、寄席)【公民連携、私企業協賛】<br>3.デザインコントロール(ビル外観や道並み景観の同調)【地権者間調整】<br>4.テナントミックス(リーシング、営業内容調整)【新規開発ビル商業床の一括借上げ】<br>このほか、各種講演活動や視察ヒアリングの受入れも実施してきました。<br>いわき駅前復興まちづくりに於いては、今までの経験を生かしつつ、白紙のキャンパスに描くべく、「地域を元気に」、「未来に夢を」を基本理念として、「30年先を考えたまちづくり」を目標として、今出来ることを一歩一歩進めるべく助言し、実行可能な企画立案を行い、行動することを目指します。 |
| 新海 洋子  | しんかい ようこ  | 特定非営利活動法人 ボラン<br>タリーネイバーズ  | 中部7県で、持続可能な地域づくり、社会形成のための、行政、事業者、NPO/NGO、学識者等多様な主体の協働による「環境」「まちづくり」「サステナビリティ」「教育」を主なテーマとしたコンサルティング、マッチング等協働事業支援を行っています。   |
| 鈴木 邦治  | すずき くにはる  | 一般社団法人 頑張る地域支<br>援し隊   | ・地域イノベーション創出による地域活性化及び人材育成、まちづくり<br>・自治体の広域連携による情報通信を用いた教育、介護、農業等の推進<br>・新エネ省エネによる新産業の創出<br>・地域資源を活用した6次産業の開拓<br>・防災、減災を踏まえたまちづくり(スマートコミュニティ)<br>・道の駅やインキュベーション施設などの活性化<br>・企業誘致・公募事業による実証実験や研究ほか   |
| 善養寺 幸子 | ぜんようじ さちこ | 株式会社 日本農水産食品輸<br>出貿易センター   | 《環境教育》<br>環境省「学校エコ改修と環境教育事業」のサポート本部。全国のモデル校を支援<br>《環境都市デザイン》<br>新潟県新潟市「西野・中野山サステナブルエコタウン構想(区画整理事業)」企画構想策定<br>《環境政策コンサルティング》<br>・「クールシティ・エコシティ普及促進勉強会」、「ローカーボン地域づくり・まちづくり研究会」等、産官学連携勉強会企画<br>・「内閣府社会起業インキュベーション事業」運営、アドバイス支援<br>・産官民協働事業「エコビジネスの芽を見つけ、育てるコンテスト「eco japan cup」」企画・統括プロデューサー<br>《復興支援》<br>・福島県双葉町平成24年度復興まちづくり計画策定に向けた「町民参加の7000人の復興会議」企画提案・実施<br>・復興庁「復興ビジネスコンテスト「REVIVE JAPAN CUP2013」企画運営                   |
| 高橋 朝美  | たかはし あさみ  | 一般社団法人環境パートナ<br>シップ会議  | 学生時代よりグリーンツーリズムに携わり、有機農業が盛んな地域での農協職員経験を経て、2014年より現職。主に関東圏内で、地域の環境課題解決に取り組む様々な主体(市民団体、自治体、企業)をつなぐコーディネーターを担っており、協働取組やESD人材育成に関わる業務など、地域での環境課題解決に向けた取り組みを支援している。  |



| 氏名     | ふりがな      | 所属名称                     | 取組概要  |
|--------|-----------|--------------------------|---|
| 高橋 肇   | たかはし ただし  | 山口大学農学部                  | 「小麦栽培から始めるパンづくり」～山口県産小麦粉を使った地産地消パン普及のとりくみ～<br>山口県周南市で「自分たちで栽培した小麦を収穫してパンをつくりたい」という田舎好き、パンづくり好きの仲間たちとともに、石窯を使ってつくるオリジナルのパンづくりを研究してきた。10年間の研究を通じて、山口県のすすめる県産小麦を使った地産地消パン普及のとりくみにも協力してきた。小麦栽培、小麦粉の製粉、石窯の扱い、パンづくりなどの科学として演出し、大学の公開講座として市民に提供してきた。講座の受講生を介して仲間をひろげ、とりくみをすすめている。このとりくみは、過疎高齢化で崩壊しようとしている地域でのコミュニティ回復策の一例として農林水産業関係者から注目されてきたとともに、食育や食農教育の素材として環境教育関係者からも注目されてきた。  |
| 竹内 よし子 | たけうち よしこ  | 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク  | ①アフリカ・モザンビーク支援関連：松山市や小学校等と協働し、放置自転車をモザンビークに送り、銃を回収するプロジェクトを支援。放置自転車対策からまちづくり支援、学校教育支援から地域ぐるみの取組みへと発展。現在は、持続可能な社会づくりのための「学び」と「実践」の拠点として現地の公民館建設に取り組む。本事業については、学校から地域へと広がり、企業・メディア・ミュージアムなども関わって国際・平和・環境・人権・多文化共生教育の一環を担っている。②東雲公園関連：公園の一部（未利用地）を活用し、NPO法人えひめ311と愛媛大学とともに「コミュニティファーム」として取組みが展開できるよう、町内会、松山市公園緑地課等関係者との調整を図り、小学校児童の生活科の授業で環境ESDモデル学習の実践を行った。③その他、各種学校との連携により多様な主体が地域のコミュニティづくりに関われるよう支援・助言している。  |
| 竹田 純一  | たけだ じゅんいち | 東京農業大学／農山村支援センター         | 社会的協働による山村再生対策構築事業「山村再生支援センター」（林野庁）<br>里地里山保全方策の検討とモデル地域づくり（環境省）<br>トキの野生復帰をめざした共生と循環の地域社会づくり（環境省、新潟県）<br>人と自然が織りなす里地環境づくり（農水省、環境省）<br>アベサンショウウオの保全と地域社会づくり（福井県庁）<br>神奈川県里地里山条例検討委員、里地里山づくり事業、他（神奈川県庁）<br>日本の里地里山30保全活用コンテスト事務局（読売新聞、環境省）<br>イオン里地里山保全活動（イオン環境財団）<br>この他、エコスクール、再生建築の調査、水俣セミナー、市民政策提言フォーラム、かおり風景百選、星空の街あおぞらの街全国大会（環境省）  |
| 太齋 彰浩  | だざい あきひろ  | デザイン・バル                  | 民間の研究所で、海洋生物・生態学の研究者として藻場造成等の研究に従事。<br>地域密着型の教育活動を志し、志津川町（現・南三陸町）へ移住。使われなくなった箱もの施設を再生し、住民も気付かない地域資源の掘り起こしと、体験学習プログラム開発により、学びをキーワードにした交流人口の増大に貢献。慶応義塾志木高等学校の研修プログラムやJSTの高校生サイエンスキャンプ受け入れなどで、年間2,500名ほどの教育利用を創出。地域の人材育成にも力を入れ、地元小中学校でのプログラム実施やエコツアーガイド等の養成を行う。<br>東日本大震災で町が壊滅的な被害を受けた後は、水産業の復興に取り組むとともに、持続可能な地域社会の姿を模索し、未利用資源を無駄なく使う「地域循環の仕組み」づくりに注力。   |
| 田邊 寛子  | たなべひろこ    | まちひとこと総合計画室              | <アドバイザーとしての取り組み><br>・観光：地形や境界など地理的な要素も地域資源ととらえ、歴史や産業と合いましたその地域らしい観光づくりを持続可能な仕組みづくりを視点にアドバイスをしている。<br>例) 長野県辰野町：横川溪谷地域資源活用観光モデルコースの住民の主体的な開発事業に講師として参画。<br>・社会福祉：離島の福祉について、地域資源の活用し、障がい者や高齢者の「生きがい」「自立」「持続可能」を視点に場づくりの支援を行っている。<br>例) 鹿児島県徳之島：社会福祉法人の複数の施設の再編と改善を地域と連携した施設づくりのアドバイザーとして参画。<br><コンサルタント・景観デザイナーとしての取り組み><br>・景観デザイン：その地域の地域資源である風景は人々の暮らしと生業が根本にあり、ハードのデザインだけでなく、ヒト・コトづくりにつながる関係のデザインも同時にアドバイスしている。<br>例) 葛飾柴又帝釈天参道周辺：住民主体の景観づくりを2004年からまちなみガイドラインの作成やまちなみ協議会の運営を支援し、2018年文化的景観に選定。 |
| 富永 一夫  | とみながかずお   | 特定非営利活動法人エヌピーオー・フュージョン長池 | ・八王子市多摩ニュータウン地域で暮らしの支援を実施<br>・八王子市長池公園＋80公園の指定管理者を継続<br>・総務省 地域力創造グループと「全国地域づくり人材塾」を実施<br>・NPOフュージョン長池 公園経営学校を主宰  |

| 氏名     | ふりがな      | 所属名称   | 取組概要   |
|--------|-----------|--|--|
| 豊岡 和美  | とよおか かずみ  | 一般社団法人徳島地域エネルギー)   | 再生可能エネルギーを活用し、地域の経済循環をつくるためには、地域が主体となつての事業化が必要です。そのためには、基本情報を精査し、資金を調達し、事業化できるまでを徹底的に支援する必要があります。特に大切なのは事業の採算性の確保と、事業の利益を地域の活性化にどう役立たせるかということです。地域が自主性を持って事業が出来るようになるように、地域に寄り合い、伴走できるアドバイザーをめざして取組を進めています。<br>(1) 再生可能エネルギーを事業化する取組を支援します。<br>(2) 収益の地元還元型事業の総合的企画策定を支援します。<br>(3) 自治体と連携し、地域の問題解決に資する取り組みを提案します。   |
| 中坊 真   | なかぼう まこと  | NPO法人九州バイオマスフォーラム  | NPO法人九州バイオマスフォーラムは、バイオマスの普及啓発事業、地域モデル事業としてバイオマスの利活用事業、コンサルティング・講師派遣・バイオマス製品の普及事業を行っています。特に草本系バイオマスの収集運搬・利活用技術に関して、ノウハウを持っています。<br>バイオマスの普及啓発事業としては、テレビ熊本と連携してH19年度からバイオマスをテーマにした55分番組を制作・九州一円に放送しています。また、BDFカートやミニBDF精製プラントを使って、小学校でバイオマスをテーマにした環境教育を行っています。<br>木質バイオマスに関しては、薪・木質ペレットストーブの普及啓発や、薪・木質チップの製造・販売支援、木質バイオマスボイラーの導入簡易診断などを行っています。<br>2016年4月に発生した熊本地震では、震災により発生した解体材などの木くず処理のコンサルティングを行いました。また、災害支援ボランティアのコーディネートも実施しました。   |
| 中村 隆行  | なかむら たかゆき | 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター   | 1997年に広島県域の中間支援組織として、立ち上げて以来①NPOに関する情報の収集提供事業、②共同事務所の運営、③NPO資源循環システム・資金助成事業としてNPO活動奨励賞、ろうきん寄付システム、ひろしまNPOサポート倶楽部などの仕組みをつくり助成事業を行う。④人材育成事業、⑤大学連携事業、⑥ネットワーク構築などを行っている。   |
| 中村 哲雄  | なかむら てつお  | 一般社団法人葛巻町畜産開発公社  | 平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろセンターカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に来町した沖繩県名護市議会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など  |
| 野村 みゆき | のむら みゆき   | 越前市エコビレッジ交流センター  | 環境学習(里山スクール、坂口エコミュージアムウオーク、里やまカフェ)の主催事業企画運営のほか、団体の要望に沿うようにプログラムを組み、里山の自然環境を活かした環境教育のコーディネートやコウノトリの取組みなどの説明や出前講座も行っている。今までにこども環境管理士1級を始めとする様々な資格を取り、子どもから大人まで幅広い年齢層を相手に、自然のおもしろさや不思議さ、命のつながりに気付くヒントを導いている。平成15年より里地里山の保全再生、特に希少動植物の保全に取り組んでいる。そういったノウハウを地元の多面的機能支払交付金事業の事務局として活かし、安心安全な環境づくりや、有害鳥獣対策につなげている。<br>また、平成16年より、地元の小学校と地元の自治振興会 環境部会との協働事業で、無農薬無化学肥料による「コウノトリが舞い降りる田んぼづくり」を手掛け、田植えから草取り、稲刈り、田んぼは稲を育てるだけではなくたくさんの生きものを育む場所として観察会も行っている。収穫したもち米や藁を利用して、しめ縄づくりや餅つき交流会、かきもち作りを企画運営し、田んぼの魅力、里山の大切さに気付いてもらおうと奮闘している。   |
| 芳賀沼 伸  | はがぬま しん   | 株式会社芳賀沼製作 / NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク<br>(株)マストロ・ジェベット / NPO法人南会津はりゅう里の会 | <株)芳賀沼製作 概要><br>・国内でログハウスの先駆者として、ログハウス村「はりゅうウッド村」を35年前より建設し、現在98棟となる。<br>・2011年東日本大震災後、福島県木造仮設住宅でログハウスでの仮設住宅の提案者メンバーとなり、600棟を建設する。<br><NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク 概要><br>・地元林業従事21団体(3森林組合含む)と木材(立木)の価格を守り、収入を増やす為、古くて新しい産業づくりを展開(素材での有効活用法)。<br>・森林認証材の具体的な活用法を提案、実施(A・B材-縦ログ・家具、B・C材-日用品・玩具、C材-アロマ、薪利用)<br><株)マストロ・ジェベット 概要><br>・町内加工業者4社と都市在中デザイナーと組み、海外(ヨーロッパ・中東・アジア)を見据えた木製玩具の販売展開中。<br><NPO法人南会津はりゅう里の会 概要><br>・地元住民とIターン・ニ地域居住者(土地を借地方式とした「はりゅうウッド村」の住人)による、山村での豊かな生き方・暮らし方の実践を現在進行中、事務局の役割をになう。アロマ事業を開業し、地元住民が採取した枝葉でオイルを精製し、出口販売先と共同で新しい職づくりを展開。<br>・山村大学から継続している野外教育事業を発展し、広大なフィールドを活用した新たな観光産業を展開。 |

| 氏名    | ふりがな      | 所属名称                      | 取組概要   |
|-------|-----------|---------------------------|--|
| 蜂谷 潤  | はちや じゅん   | 一般社団法人 うみ路 / 合同会社 シーベジタブル | 2013年3月、高知県東端に位置する室戸を拠点とした地域の会社“一般社団法人うみ路”を設立。<br>主に地域内で生産される農産品や水産品を使用した加工品の開発や販売、地域内外の交流イベントや勉強会の企画、カフェの運営など地域に根ざした事業を多岐にわたって展開している。<br>2016年4月、海藻の陸上用養殖を中心に行う合同会社シーベジタブルを設立。<br>室戸市の特産品である海洋深層水で海藻の陸上養殖モデルを確立。その後は日本各地で展開できるよう、海水井戸水（地下海水）を活用し海藻やアワビ類の陸上養殖のモデル作りを行ってきた。現在はこのモデルをもとに、福祉作業所や高齢者等、成立させることが難しい事業者とパートナーシップを組んだ日本各地での事業モデル作りを行っている。  |
| 花井 恒三 | はない こうぞう  | 奄美のトラさん                   | ①奄美と本土・沖縄の人材マッチング（ヒューマンネットワークウェア）<br>②本土・沖縄から奄美に住みたい・投資をしたい・貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方（マドンナ、男性含む）への奄美の入口案内ボランティア。  |
| 平田 裕之 | ひらた ひろゆき  | 一般社団法人コクリエーションデザイン        | ・グラフィックレコーディング／ファシリテーション<br>・NPOのマネジメント／人材育成支援<br>・社会貢献プログラムの事務局支援<br>・コミュニティデザイン支援  |
| 平野 彰秀 | ひらの あきひで  | 特定非営利活動法人 地域再生機構          | ・農山村における地域づくりと自治再生の支援<br>・地域住民主導による小水力発電の導入・木質バイオマスボイラー導入の支援   |
| 平野 龍平 | ひらの りゅうへい | 富士急行株式会社／一般財団法人コレゾ財団      | 数々の地域活性化や観光振興のお手伝いをさせて頂いている内に、言うだけで何もしない人が多いこの世の中で、自ら考え、行動を起こし、真っ当で当たり前なことをごく当たり前に行っている人たちこそ、貴重で、尊い存在であり、行動し続ける先にしか、結果は生まれず、成果は後からついてくるものだ、ということに気が付きました。<br><br>いろんな地域のさまざまな事例を拝見してきて、成功事例や素晴らしい取り組み、活動に唯一、共通しているのが、魅力的な担い手の皆さんの存在です。<br><br>「COREZO（コレゾ）賞」表彰事業は、そんな方々が一堂に会して、ウまい食を食べ、ウまいお酒を酌み交わしたら、きっとおもしろいことが起こるだろうと思って始めました。<br><br>「COREZO（コレゾ）賞」は、「権威なし」、「権威なし」、「名誉なし」、「賞金なし」の三拍子揃った「三なし賞」の上、毎年、表彰式は、受賞者のおられる地方で自主開催して頂き、旅費、宿泊費は、自腹、飲食も参加者の持ち寄りなのに、既に4回実施し、延べ300名近い表彰者と関係者、賛同者の交流の場にもなっています。<br><br>案の定、日常、交流することもない、分野も業種も職種も違う多士済々な皆さんが一堂に会することで、思いもよらない化学反応が起こり、主催者も知らないところで、いろんなコラボや協働等、おもしろいことが次々に始まっています。<br><br>自分のような若輩者が「地域活性化伝道師」に認定され、何かアドバイスするなんておこがしく、先達の皆さんに対し、失礼に過ぎると自覚していますが、「COREZO（コレゾ）賞」他を通じて、数多くの皆さんとのご縁と人的ネットワークだけは、有しており、「人」と「人」のご縁をつなぐ役割は果たせるのではないかと考えています。 |
| 平原 秀則 | ひらはら ひでのり | 平原建設株式会社                  | 例えば沖縄の慰霊地に奉納された千羽鶴。実はその最終処分方法は自治体の大きな悩みです。そこで、千羽鶴を再生紙として甦らせ、ノートや名刺の台紙などに製品化して慰霊地の記念品として販売。これを発展途上国の子どもたちの教育に役立てられています。<br>また、千羽鶴の解体、仕分け作業を障害福祉施設の利用者をお願いし、工賃の向上を担っております。さらには、沖縄や広島への修学旅行の平和学習プログラムとして、千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティア活動を組み入れるなど、人と人をつなぎ、地域とつながる方法を考えて来ました。また被災地支援では、北海道等で産業廃棄物に過ぎないホタテの貝殻を、牡蠣養殖の採苗用に被災地の被災障害者施設で加工し、広島等の養殖地に販売する取り組みを進めており、被災地の障害者の就労支援を通じて、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを再生することを目指しています。<br>直近の事例としては、平成24年8月、北海道の北広島市で、障害者支援施設を運営する地元社会福祉法人の地域貢献をコンセプトに、北海道と広島の酒造協会の協力の下、銘酒の試飲会のイベント「北の酒祭り」を開催し、地域住民の絆づくり、地域活性化のお手伝いをさせていただきました。  |

| 氏名    | ふりがな      | 所属名称                            | 取組概要  |
|-------|-----------|---------------------------------|---|
| 藤井 絢子 | ふじい あやこ   | NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク            | 琵琶湖の水環境再生をスタートに、地球温暖化対応のBDF開発・普及、耕作放棄地などへの菜種栽培展開。<br>地域課題に向き合う自律の市民の育成と、持続可能な食・エネルギーの地域自立モデル「菜の花プロジェクト」を展開<br>全国各地に活動が広がり2001年より、毎年全国菜の花サミットを開催。<br>3.11後は、福島県南相馬市、須賀川市を重点に毎年菜種の種まきに参加している。<br>震災・原発被害の重荷をかかえる地域の方々との連携を密に、展開しているところである。  |
| 藤野 龍一 | ふじの りゅういち | 株式会社里山ホテル／一般社団法人との森／里山資本主義フォーラム | 元々は健康保養センターだった施設を、里山体験に特化した施設へ生まれ変わらせつ<br>つ、来訪者に体験頂きたい地域の魅力の商品化を進めています。<br>・世界初の空中キャンプサイト「マッシュルームキャンプ」を里山グランピング第一弾として2015年より提供。<br>・市有の公園「ふるさとの森」の整備を進め、家族で自然や里山の環境を身近に感じて<br>頂ける環境づくりとアクティビティを提案。<br>・地域ならではの魅力を商品化するためのノウハウを共有し、ホテルスタッフによるプラン<br>造成を推進。<br>・里山資本主義の考え方に基づいた、地域経済参加型宿泊プランの開発。<br>・茨城県北振興課主催の県北アウトドアプロジェクトを通じた地域振興への参画  |
| 藤村 望洋 | ふじむら ぼうよう | 早稲田エコステーション研究所(ぼうさい朝市ネットワーク)    | 災害を想定しながらも「美味しく楽しい」地域活性化活動「ぼうさい朝市」の仕掛け人。かつての北前船ルートでつながる港町をネットワークして、日頃から防災をテーマに活動し、いざというときの救援物資に見立てた特産品(美味しい救援物資)を全国各地から運び込み、地域住民が訓練を兼ねて設営したテントで販売する産直市「ぼうさい朝市」を開催。この仕組みを活用して、山形県庄内地方の特産物の大阪への流通コースを構築する「特産物のフルコースディナー」を開催(H23年度山形県鶴岡市と酒田市と大阪を結ぶ地域活性化伝道師活動)。<br>「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時は混乱する被災地ではなく、安全な「隣」が拠点となって支援する仕組みを提唱。壊滅的な被害を受けた南三陸町「おさかな通り商店街」もネットワークに参加しており、その経過から、山形県酒田が「災害時の隣」となり、全国各地から酒田を中継基地として南三陸町へ救援を行い、第2段階で「福興市」を立ち上げ、第3段階で地方都市と南三陸を結ぶ地域連携による商店街再生のビジネスモデル構築を支援している。「福興市」はH23年度「地域づくり大賞」を受賞。H24年3月、全国からの被災地支援団体・企業と被災地の地元団体をつなぐコーディネート組織「一般社団法人南三陸福興まちづくり機構」を設立。漁業及び林業の6次産業化を全国連携で取り組んでいる。<br>瀬戸内海は、エーゲ海やカリブ海に勝るとも劣らない歴史と風景と地域資源をもつ海洋観光の最適エリアである。しかしエーゲ海等で今や巨大な観光産業となっている小型船による島めぐりクルージングはほとんど行われていない。国際的な海洋観光産業を瀬戸内海に事業構築するために、瀬戸内海の島々のNPOや地元自治体や各種の専門家と連携して一般社団法人日本海洋観光推進機構を設立。 |
| 藤原 一夫 | ふじわら いつお  | 藤原コンサルティング                      | 中小建設業の経営革新、再生、新分野進出等、建設業関連専門の経営コンサルタントとして経営指導等を業務とする傍ら、中小企業診断協会東京支部の建設業経営研究会の代表幹事として、建設業経営の情報交換・勉強会を主催しております。   |

| 氏名     | ふりがな      | 所属名称                         | 取組概要   |
|--------|-----------|------------------------------|--|
| 星野 智子  | ほしの ともこ   | 一般社団法人 環境パートナーシップ会議          | <p>環境省と国連大学の共同事業である「地球環境パートナーシッププラザ」の運営業務に関わり、環境教育、持続可能な地域づくり、生物多様性保全、NPO活動支援、ボランティア活動の普及、地球規模課題の普及啓発など、環境政策コミュニケーターとして、多様な主体との対話づくり、パートナーシップ構築を日々行っている。</p> <p>地域における青年・女性の役割に重視しており、活動サポートに注力してきた。1994年に青年環境団体に開発したイベントごみリサイクルのためのボランティアコーディネーターは今では全国で見られるようになった。現在では東京2020大会に向け、ボランティアにサステナビリティの視点を普及啓発している。</p> <p>安全な食の普及とエコツーリズムに関心があり、毎年田んぼに通い、生産者と消費者の交流の場を作っている。また仕事とプライベートで多くの農山漁村・島を訪れ、ヨソ者視点で地元住民との交流、地元産品の研究を各地で行っている。</p> <p>H11年6月地球環境行動会議主催 UNDESA共催「グローバル・コモンズ世界環境会議 '99」 企画・運営<br/>                     H11年10月地球環境行動会議主催 UNFCCC/COP5 (ボン)でのサイドイベント 企画・運営<br/>                     H12年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(ベトナム) 企画・運営<br/>                     H13年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(タイ) 企画・運営<br/>                     H14年8月ヨハネスブルグサミット NGOフォーラム 現地ブース出展・ワークショップ企画・運営<br/>                     H15年地球環境行動会議主催 「エコユース会議」 企画・運営<br/>                     H16 ドイツ日本学会(発表)日本の環境NGOについて(ミュンヘン)<br/>                     H19・UNUグローバルセミナー 講義(沖縄・神奈川)(英語)<br/>                     H20・G8洞爺湖サミット NGOフォーラム G8市民サミット 企画・運営<br/>                     H21・大阪経済法科大学 講義(大阪)(英語)<br/>                     H22・CBD-COP10 UNU主催サイドイベント 里山知事サミット 企画・運営<br/>                     H23・水銀条約政府間会合(INC2)環境省主催サイドイベント 司会(英語)<br/>                     H25国連大学グローバル・セミナー 2013湘南セッション<br/>                     H26・ESDユネスコ会議併催イベント UNU共催(11/12) 企画・運営・登壇</p> |
| 本田 勝之助 | ほんだ かつのすけ | 本田屋本店 有限会社                   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農業と食から実績を積んだ地域プロデュースの総合専門会社を経営。</li> <li>2. 代表商品は「本田屋継承米(氏郷)」。肥料開発及び、生産管理、販売まで一貫して行っている。納入先には銀座久兵衛や金田中などの名店、京都伊右衛門サロンなどカフェレストラン等で使われている。</li> <li>3. 全国各市町村への戦略的アドバイス、ブランドや商品開発、産業活性化への各種取り組みなどの要望に応え、地域との官民連携で戦略的にプロデュースしている。</li> <li>4. 伝統工芸品のリブランド、商品開発。(Futradition WAOとの協業)</li> <li>5. クリエイティブ:PR制作物(コピー、ポスター、リーフレット、映像、各種)</li> <li>6. 観光やまちづくり、スマートシティ等のモデルづくり。</li> <li>7. 日本遺産認定の全地域に対しての統括プロデューサー業務</li> </ol>   |
| 町田 直子  | まちだ なおこ   | 特定非営利活動法人 ACTY / 株式会社ACプロモート | <p>NPO法人と株式会社にて地域ブランディング戦略による地域プロデュースをすすめています。NPOでは、環境省が設置した種差海岸インフォメーションセンターの運営管理、「みちのく潮風トレイル」の運営管理を担いながら、青森県ならではの地域資源を最大限にいかしながらブランディング化をすすめる、地域経済の活性化をすすめています。地元住民とのネットワークを構築し、地域が主体となり参画できるシステムを作っています。株式会社では、観光開発に力をいれ着地型体験の旅行商品を造成し、漁業者、農業者、または三セク鉄道との連携によるプログラムを多数開発・販売しています。中心街にカフェを設置し、情報発信の拠点として、また観光客の拠点として運営をしています。カフェ事業部、お土産品の販売、ツアーの商品化により、開発から商品化を一貫して行います。地域ブランド戦略による事業展開を進めています。</p>  |
| 松井 郁夫  | まつい いくお   | 株式会社 松井郁夫建築設計事務所             | <p>古民家の知恵に学び、日本の気候風土に合った木組の家づくりを実践。「むかしといまをみらいにつなぐ」住まいづくりを通して美しい日本の風景と地域コミュニティの再生がテーマ。</p> <p>良質の木の家に住みたくても手が出ないと思っている建主、伝統の技を活かす場所がないと嘆く職人、植林の費用が必要な山のために、協働することでそれぞれの夢をかなえる、共存共栄の仕組み「ワークショップ「き」組」を立ち上げる。</p>   |
| 松井 利夫  | まつい としお   | 株式会社 アルプス技研                  | <p>○「認定 特定非営利活動法人(NPO) 地域産業おこしに燃える人の会」会長<br/>                     ○第三セクター「株式会社さがみはら産業創造センター」初代社長(現在退任)<br/>                     ○岩手県北上市「北上しらゆり大使」、および「工業振興アドバイザー」(現在退任)<br/>                     ○北海道上市幌町「まちづくりアドバイザー」<br/>                     ○国内外の大学7校に、起業を目指す学生を対象とした松井奨学金制度を設置<br/>                     ○約20社のベンチャーを応援、エンゼル投資をする。<br/>                     ○公益財団法人起業家支援財団、認定NPO法人ふれあい自然塾を、個人資産を投入し設立。社会貢献活動に注力。</p>   |

| 氏名     | ふりがな       | 所属名称                              | 取組概要  |
|--------|------------|-----------------------------------|---|
| 松島 信雄  | まつしま のぶお   | (公益財団法人)南信州・飯田産業センター              | 地域の中小企業の体質改革と新産業クラスター形成に取り組んでいる。事業は4つの柱を基本にしている。<br>①ネットワーク形成と地域連携事業：広域連携としては新潟等との協力活動を展開している。飯田地域においては企業間の交流を通して相互の信頼を高め、協力風土の醸成を図っている。また産学公の連携で地域のポテンシャルアップに繋げている。<br>②新産業クラスターの育成：航空宇宙クラスターの形成を重点プロジェクトとして位置づけている。<br>4つのワーキングチーム活動を通してQMSの体制確立や技術の向上を図りながら地域一貫生産、共同受注を目指し、実績を上げている。<br>③販路開拓支援：マーケティング機能を持たない中小企業にとって販路開拓は大きな課題である。海外も含めた展示会出展や顧客開拓支援に力を注いでいる。海外市場開拓支援としてParis, Farnborough, Belrin, Singapore, Toulouse, NBAA等のAirshowに出展参加してきた。<br>④人材育成：技術・技能のレベルアップと後継者育成を目指して、働きながら学ぶ風土を醸成しようと産業技術大学を立ち上げ夜間、休日を中心に運営している。年間150社を超える企業から延べ2000人近い企業人が学んでいる。2014年から地域企業人材共同育成事業の経産省委託を受け、プロジェクトマネージャーを務めている。航空宇宙のQAと生産技術コンサルティング、非破壊検査員の育成に取り組んでいる。  |
| 松場 登美  | まつば とみ     | (株)石見銀山生活文化研究所／(株)他郷阿部家           | 石見銀山生活文化研究所では衣・食・住のデザインに取り組み、衣においては国内の素材と加工にこだわった商品の企画製造販売、食においては再生した民家を活用した飲食店の経営、石見銀山で発見した梅花酵母菌を生かした商品開発、住においては島根県大田市大森町で約20年にわたり民家再生を行っている。大田市大森町以外に、東京・西荻窪の昭和初期の民家を再生し活用している。   |
| 松原 裕樹  | まつばら ひろき   | 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター              | 1982年広島生まれ。NPOや企業、渡米経験を経て、環境、教育、地域づくり、観光、防災などに関する事業の企画、運営、コーディネートを行っている。2012年よりひろしまNPOセンターに勤務、2017年から事務局長に就任する。ゆたかな市民社会の実現に向けて、NPOやボランティア活動の支援、ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)の推進、地域課題の解決やSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)の達成に向けた多様な主体との協働取組など、現場から後方支援まで幅広く活動している。環境省中国環境パートナーシップオフィス(EPOちゅうごく)・中国地方ESD活動支援センター 事務局長。  |
| 三上 亨   | みかみ とおる    | (一社)政策集団地域再生青森会議 NPO法人グリーンエネルギー青森 | 2003年度 あおもり市民風力発電所建設(建設費3億8000万円)<br>2004年度 市民風車ブランド「風丸」(青森県在来種枝豆)の販売開始<br>2004年度 コミュニティビジネスと地域再生の支援開始<br>2005年度 市民・NPO・町協働の「鱒ヶ沢マッチングファンド」助成事業開始(～2008年度)<br>2005年度 グリーンエネルギー青森が、総務省から過疎地域自立活性化表彰を受ける。<br>2005年度 津軽鉄道・津軽鉄道サポーターズクラブの支援開始。<br>2006年度 都市再生モデル調査で、津軽鉄道再生に向けたアクションプランを策定。<br>2007年度 青森県大鰐町で、OH!!元気隊の設立を支援。町再生に向けたアクションプラン策定。<br>2008年度 津軽鉄道サポーターズクラブが総務省から過疎地域自立活性化表彰を受ける。<br>2008年度 元気隊有志がプロジェクトおおわに事業協同組合を設立。赤字施設「大鰐町地域交流センター鰐come」の指定管理受託決定。<br>2009年度 指定管理受託初年度で、鰐comeの黒字化を達成。<br>2012年度 プロジェクトおおわに事業協同組合が、地域づくり総務大臣表彰を受ける。<br>2016年度 大鰐町大鰐増産推進委員会地方創生事業受託<br>2016年度 プロジェクトおおわに事業協同組合が地域づくり国土交通大臣賞金賞を受賞   |
| 御園 慎一郎 | みその しんいちろう | 大阪大学／地域活性学会                       | ・自治省入省後、地方税財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の提言を学ぶ<br>・サッカープレーヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002 FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共同開催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感や形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的企業における交渉力の大切さを痛感。<br>・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。<br>・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性学会」の設立を提案。発足にも貢献。現在副会長として学会活動の進展、とりわけ学会スポーツ振興部会長として2020東京オリンピックパラリンピックのホストタウン運動を契機とした地域づくりの支援活動を積極的に展開中。<br>・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環としてJリーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現に。その延長線上の活動として医療介護のサービスの質の向上や究極の地域づくりである「地域包括ケアシステムの構築」に際して欠かすことのできないヘルスデータをクラウド上で管理することを目的とするNPO法人の活動を展開中。 |

| 氏名    | ふりがな     | 所属名称                              | 取組概要  |
|-------|----------|-----------------------------------|---|
| 宮城 治男 | みやぎ はるお  | 特定非営利活動法人ETIC.(エティック)             | <p>(1)起業家型リーダー育成プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起業家、リーダーを志す若者をベンチャー・中小企業の現場にマッチングする「アントレプレナー・インターンシップ・プログラム」</li> <li>・ETIC.イノベーターズ・スクール(起業家講演会)</li> </ul> <p>(2)ソーシャル・アントレプレナー輩出プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会起業家の事業基盤確立、ベンチャー企業とのマッチングを支援する「イノベーション・グラント」</li> <li>・社会起業を志す若者のビジネスプランコンテスト「STYLE -Social venture competition」</li> <li>・社会起業塾イニシアティブ(NEC社会起業塾、花王社会起業塾、横浜社会起業塾)</li> <li>・東海若手起業塾</li> <li>・個別プロジェクト経営相談会</li> </ul> <p>(3)チャレンジ・プロデューサー輩出プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の若者と、挑戦する中小企業</li> <li>・地場産業等を繋げる「チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト」</li> <li>・地域の社会起業家、起業家型リーダーの発掘、育成</li> </ul> <p>(4)大学や行政との地域協働プログラム開発</p> <p>(5)震災復興リーダー支援プロジェクト</p> |
| 向井 哲朗 | むかい てつろう | 彦名地区チビッツ環境パトロール隊・NPO法人エコパートナーとっとり | <p>「子供も大人も身近な環境問題を五感で感じることが課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年にこどもを中心とした「彦名地区チビッツ環境パトロール隊」を結成。テーマは、身近な大問題である「中海の水質浄化」。家庭から出る生活排水と中海の水質汚濁の勉強が始まり、水質汚濁の大きな原因となる廃天ぷら油の回収がスタートした。この活動は、現在、障がい者施設の皆さんとBDF製造にまで発展している。全国で初めての試みでもあった使用済み割り箸を回収し製紙工場と協働して紙再生への取組みについて問題提起。鳥取県米子市で地元のホテル温泉街に協力を呼び掛けて始まった本取組みは、今では地域全体での取組から、更には全国区の事業にすることができた。身近な環境を体で知り、そこに存在する問題をきちんと理解し、自ら活動をするを覚えれば、地球温暖化防止への道は近い。25年以上に渡って続けている割り箸・廃天ぷら油の回収・再資源化活動は、地球を愛することができる豊かな心を持った人間を育てている。廃油ローソク作り・牛乳パックから手づくり葉書づくり・環境パトロール・廃パンスト等を活用した生活排水浄化方法・メダカ/ホテル観覧会・水鳥観覧会等体験型学習の指導、グラウンドワーク活動・環境を基軸にした協働の街づくりの継続実践をしている。</p>  |
| 森賀 盾雄 | もりが たてお  | 愛媛大学                              | <p>長年、市行政の内部と外部を結び、研究会や市民団体を組織して、地域づくり・産業おこしに取り組んできた。それらの成果を生かして全国で講演・地域づくりの支援・アドバイス・企業社員研修等を行ってきた。とりわけ地域資源を活かした地域づくり・人材づくり・産業遺産の活用・産業観光・NPO活動で実績を残している。市職員から大学教授になり教育・研究を進めており、環境・農山漁村の地域再生や起業論をも対象とした幅広い分野での対応・取組となっている。テーマとしては「地方工業都市の産業文化創造都市への発展」「産業遺産を活用した地域づくり」「これからの地域づくりの主体形成とマネジメント及びマーケティング」「地域起業マネジメント」等である。愛媛大学での「紙産業修士コースの創設」、社会人「地域マネジメントスキル講座」の開設で中心的役割を担い、後者では150名の受講修了生を愛媛大学地域再生マネージャーとして送り出している。2014年度からは愛媛大学地域再生マネージャーのさらなる学びのための「地域再生塾」、「須崎未来塾」、「にいほま未来創造塾」の塾長として、講座を超えた「私塾の実践的人財づくり」を精力的に取り組んでいる。</p>   |
| 森本 明夫 | もりもと あきお | -                                 | -   |
| 矢口 正武 | やぐち まさたけ | NPO法人 元気・まちネット                    | <p>多くの地方は少子高齢化によって過疎化が進んでいます。元気・まちネットは、そうした過疎に悩む地方から、相談を頂ければ出かけて行き、地元の皆さんと膝を交えてお話をし、その土地にまつわる歴史・文化を掘り起こし、その土地ならではの活性化に寄与出来ればと考えています。また、スポーツイベントの開催にしても協会や連盟などに登録しなくても可能なローカルルールを考案・構築して、地元の方々も一緒に参加出来る、楽しめる企画を考案出来ます。</p>   |
| 矢原 正治 | やはら しょうじ | 山口東京理科大学薬学部、熊本有用植物研究所             | <p>私は、地域には多くの「宝」が眠っているが、日常生活の中で当たり前となっており、地元の方は気づかないことが多いため、地元以外の専門家が、現地に入り、聞き取り調査を実施すると、その地域の多くの「眠れる宝」を見いだすことができると思っている。また、1次に、2次、3次を足して、6次産業と言われるが、情報関係が入っていないため「6次産業+情報産業」を進める。地域にある、モノと人の宝を探し、まず、薬用植物、有用植物にフォーカスした、地域おこしを主とし、環境関係も絡め考える。</p> <p>ネパールのAITM大学の生物工学科の学生に講義と実習を行っています。また、ネパール日本友好財団に参加し、田舎の子供達の教育の向上を行っています。</p>  |

| 氏名     | ふりがな       | 所属名称                | 取組概要  |
|--------|------------|---------------------|---|
| 山田 桂一郎 | やまだ けいいちろう | JTIC. SWISS         | <p>これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。</p> <p>また、政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザインであったとしても人間社会の「エゴ」と「利害」により全てが崩壊します。</p> <p>多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲労している現実があります。地域住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。</p> <p>このような状況から脱出するためには、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組む必要があります。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域が生き残るために住民の方々と共に考え、実践しています。</p>   |
| 吉田 敦也  | よしだ あつや    | 徳島大学 地域創生センター       | <p>取組内容</p> <p>徳島大学フューチャーセンターA. BAディレクター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フューチャーセンターの構築運用、デザイン思考ワークショップ、イノベーション創出、人材育成</li> </ul> <p>上勝自然学校「もりのべ」統括ディレクター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「場」を基礎にした学びのプログラム開発、地域/国際連携による実践、子育て支援への応用</li> </ul> <p>NPO法人いきいきネットとくしま理事長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シニアICTリテラシー形成支援活動、会員約260名</li> </ul> <p>総務省事業「とくったー」プロジェクトリーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンとツイッターによる高齢者の見守りシステムの開発と実践</li> </ul>   |
| 吉田 総一郎 | よしだ そういちろう | (株) 吉田籐兵衛・アンド・カンパニー | 再生可能燃料の合成と実践的な地域的活用   |
| 吉富 慎作  | よしとみ しんさく  | 特定非営利活動法人 土佐山アカデミー  | <p>■特定非営利活動法人土佐山アカデミーの取組み</p> <p>土佐山アカデミーは「次の100年のために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場づくり」というミッションを掲げ、5つの事業ドメインを展開し、年間を通して開催している短期・長期ワークショップや研修には事業開始から延べ9,800人以上が受講しています。</p> <p>【TOSAYAMA ACADEMY (循環型の生活を地域の方から学ぶワークショップ群)】は、日帰りから3ヶ月滞在型プログラムまで、地域の課題を資源と捉え、それに基づいた年間12本以上のワークショップを展開。</p> <p>【土佐山ワークステイ (中長期滞在支援サービス)】<br/>都会の方に「家を貸し、車を貸し、コネを提供する」土佐山に滞在し、土佐山のための仕事をする方へのプログラム。</p> <p>【EDGE CAMP (中山間地域特化型起業家養成プログラム)】<br/>「雇用がないだけで、仕事はある」。地域での仕事の作り方を6ヶ月間かけて仲間と共に学んでいくものであり、日本財団より補助を得て実施している。</p> <p>【TOSAYAMA Creative Camp (企業・団体研修)】<br/>平成27年から実施。地域の課題を研修教材へと編集し、地域おこし協力隊の研修のみならず、高知県庁、大手企業本社等からの人材育成研修を行っている。</p> <p>【コンサルティング サービス】<br/>企業の事業企画、他地域の地域づくり、交流人口増加のためのコンサルティングや行政の委託事業受注等。</p> <p>■受賞歴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2014年環境省グッドライフアワード 環境と学び特別賞</li> <li>2016年農林水産省 オーライニッポン大賞受賞</li> </ul> |
| 渡邊 法子  | わたなべ のりこ   | アイ・エス・ケー合同会社        | <p>地域特性を活かしたまちづくり (地域資源の再発掘・活用)</p> <p>地域の人材発掘、育成地域の主体性を核にした自立型、持続型のまちづくり事業</p> <p>着地型観光事業 (基盤の整備構築)</p> <p>ローカルエリアプロモーションビジネスの事業化</p> <p>インバウンド(訪日)観光事業</p>  |